



大阪役所に展示された全長7.5mのジャイアントトラヤン(ヤノベケンジ氏作/水都大阪2009より)



聞き手 堀井 良毅
(大阪21世紀協会理事長)

ヤノベ 私は、大阪ならではのアートを発信していきたいですね。例えばフランスのナントというまちでは、巨大な象を作ってまちをパレードするロワイヤル・ドゥ・リュクスという大道芸人のグループがあります。彼らはロンドンやベルリンなど、世界各地で公演をするほどの人気なのですが、その工房やミュージアムがナントで公開されているんです。そうしてナントは、観光誘致に成功しているんですね。文化によって都市を再生させる、ナントならではの手法といえるでしょう。大阪でも大阪ならではのアートやテクノロジーによって、大阪でしか見られないようなものを作れば、いろんなところから人が集まってくるでしょう。

宮原 そのためには、まちができてからではなく、まちができるまでに技術者とアーティストのコラボレーションをスタートさせな

くてはならないと思います。

堀井 科学技術と芸術が融合することで、研究所や美術館という枠ではなく、まちを媒介として新たな人のつながりも生まれますね。

宮原 そうです。かつて、ウフィッツイ美術館(イタリア)の絵画修復技師と私たちの技術者が一緒になって古い絵画を修復したことがあります。そのとき絵の断層写真を撮るなどさまざまな解析を行ったところ、絵具に覆われて見えなかった紋様が見えてきました。まさに西洋絵画技術の

歴史を変えてしまうような発見だったんですね。こうした国境を越えた技術と芸術のコラボレーションは、すでにスタートしているんです。

堀井 想像力を刺激するまちであることが、新産業発展のためにも重要な基盤であると思います。お二人のお話を伺っていて、本当に夢が実現する期待がふくらんできました。どうもありがとうございました。

(2009年10月16日/堂島川・福島港<福島区ほたるまち>にて)



トラヤン

宮原秀夫

1943年大阪生まれ。73年大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士課程修了。03~07年まで大阪大学総長。2007年より現職。97年通商産業大臣賞、97年IEEE(米国電気電子学会)フェロー、02年第6回エリクソン・テレコミュニケーション・アワード、03年総務大臣表彰など受賞多数。専門は情報ネットワーク学。

ヤノベケンジ

1965年大阪生まれ。1991年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。97年、作品である放射線防護服「アトム・スーツ」を着用し、チェルノブイリを訪問。無人の幼稚園や遊園地などに佇む自身の姿を発表して話題を呼ぶ。サバイバルや再生をテーマにした大型機械彫刻作品の展覧会を各地で開催。